2016 年 1 月 27 日

尼崎養護学校教職員みなさんとの研修会に参加のみなさんへ

(有)しぇあーど　李　国本　修慈

お世話になります。今回は私たちも関わらせていただいています方々(お子さんたち)の学校の教職員みなさんとの研修会ということで楽しみにしてまいりました。

私も(もう)30 年近く障害児等といわれる方々と関わらせていただく中、子どもさんたちの成長のこと(早さ)だとか、在学中の暮らしのこと、そして卒業後のこと等、様々なことを考え・感じさせていただきました。

その中で感じることのひとつとして、子どもさんたち(及びご家族)の暮らし(成長も含めた)はあたりまえに就学前～在学時～卒業後と繋がっている訳で、その成長過程における長く大きな時間を過ごす学齢期での「過ごし」はとても大切なモノなのだと思います。

ありきたりの言葉ですが、そんな時期を「共に居る」教職員みなさんと、その子たちそれぞれと関わる支援者(等)とが、できる限り様々なコトを共有できればと願っています。

今回は(イマイチお話しのテーマが思いつかなくて、すいません)「制度の使い方・活かし方」ということを表のテーマとしながら、やっぱり大切なのは「僕は・私は…」という主語を用いて(イメージして)の語らいとなればと思います。その際のキーワードは、「特別支援」や「相談支援」、「インクルーシブ教育」だとか「意思決定支援」等々(権利条約だとか様々な法制度とか)なんでしょうが、私の知り得る(偏った?)範囲でのお話しを尼崎市や周辺自治体のことやご本人さんのこと等を交えてお伝えできればと思います。

先ずは「個別の教育支援計画」や「インクルーシブ教育」等という文言がありますが、このことについては私なんぞよりみなさんが詳しく理解されていると思うので多くは触れませんが、まだまだ先に記した「ご本人さんについての様々なコトの共有」は充分ではないといえるのかと思います。

私たち(福祉だとか医療という処に居るとされる輩たち)も、もっと教育の場を知らなければならないでしょうし、みなさんも、より教育の場以外のコト・モノを知りたい(知っていただきたい)ということ(だと理解しまして)で、お話しを進めていければと思います。

で、尼崎市、なんとなく気楽な場では「昔は良かった」等という言葉が出ちゃうのですが(私だけかも?ですが^^;)、では以前はどうだったのか?や、何故そうだったのか?等を振り返りつつ、現状のことや今後のことを考えていきたいと思います。

その際に当時(支援費制度が始まった頃)の「支援サービスプラン(計画)」や現在の尼崎市の状況、更に最近の「サービス等利用計画」等を見ながら考えてみましょう。

そうすると、やっぱり現在(あるいは現代)は教育の分野もそうなんでしょうが、福祉や医療等の社会保障についても「厳しい」(この言葉にも様々な意味があると思うのですが)状況であるということが見えてくるのかと思います。

そんな中で過去のことを云々と言ってもどうなんだ?なんですが、それでも持ち続けたい

「思い」や、今も在る筈(と思いたい)の「思い」を過去のことを振り返りつつ確認したいと思います。そのうえで現在の、例えば法制度にしても決して時代の流れに逆行している訳では無く(と言うと、形だけだと言われそうでもありますが)、そんなこと(障害者権利条約等)も確認しながら現状とこれからを思い描いていきたいものです。そんなことを繰り返し(になりますが)尼崎市に暮らすご本人さんや事業所の取り組み、また私たちが関わらせていただいていますご本人さんたちの暮らしぶりをご紹介しながら、大切なコトをみなさんと確認していければと思います。

更に現代の私たちの暮らしの背景にある、例えば 2025 年問題だとか、例えばこれからみなさんもお出会いするであろう NICU から自宅へ帰るお子さんたちのこと、更には子どもたちのみならずあらゆる世代(年代)における貧困等の問題など、全てが繋がっている(ように思います)中で、私たちができるコトや持ち得たいコトを確認できればと思います。

その際に私が個人的に思うのは、重症心身障害児等(必ずしも、そういわれる方々のみではなくってという意味)といわれる子どもたちが持つ「社会的はたらき」(こそ)が人々の価値観を変えながら社会をも変えていくのだということです。

そんなことを感じながら教育(のみならず福祉や医療等)を考えていけますようにと願っています。

本日はありがとうございました。

地域生活を考えよーかい　http://www.kangaeyo-kai.net/